

平成 31 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 2 年 5 月 1 日現在

研究課題名	ロシア帝国とイギリス帝国の仏教徒による越境的交流に関する研究	
申請者	氏名	所属機関・職
	井上岳彦	大阪教育大学教育学部・特任講師

研究成果の概要 ロシア帝国臣民によるアジアでの活動はこれまで中東、中央アジア、南アジア、東アジアを中心に研究されてきたが、Karen A. Snow (2012) などの研究によって東南アジアでの活動状況も検証され、国際公共財（定期航路、電信網）を利用しアジア仏教圏（東アジア、東南アジア、南アジア）で横断的に活動するロシア系仏教徒とその他のアジアの仏教徒の関係が次第に明らかになりつつある。本年度の研究では、1) ブリヤートの 11 世パンディド・ハンボラマ、チョイゾンドルジョ・イロルトウエフのアジア旅行、2) ロシア東洋学者（特にインド学者のイヴァン・P・ミナエフ）のアジア旅行に注目して重点的に調査した。その結果、英領セイロンのアナガーリカ・ダルマパーラとイギリス人ジャーナリスト、エドウィン・アーノルドによって創設された Maha Bodhi Society（大菩提会）がロシアや日本を含むアジアの仏教徒の交流の場として、重要な役割を担っていた可能性が浮上した。カルムイク人、ブリヤート人による大菩提会への関与について、これまであまり考察されてこなかったチベットのパンチェン・ラマとの関係性という観点から、今後更なる調査・研究が必要であることが判明した。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

・ Takehiko Inoue, "The Evolution of a Buddhist Culture through Russian Media: Kalmyks, Orientalists and Pilgrimages in the Nineteenth and Early Twentieth Centuries," in Yukiko Tatsumi and Taro Tsurumi, eds., *Publishing in Tsarist Russia: A History of Print Media from Enlightenment to Revolution* (London: Bloomsbury Academic, 2020), pp. 123-140. (謝辞無)

・ 井上岳彦「遊牧から漁撈牧畜へ：定住化政策下のカルムイクについて（18 世紀後半～19 世紀中葉）」『地域研究：JCAS review』第 20 号、2020 年、56-73 頁（印刷中、査読有）。(謝辞無)

・ 井上岳彦「1850 年代ロシア帝国における跋行的宗教行政：カルムイク人仏教徒・保護監督長・国有財産省」『歴史研究』第 57 号、2020 年、43-66 頁（査読無）。(謝辞無)

・ Takehiko Inoue, "Book Reviews. Dittmar Schorkowitz, "... Daß die inorodcy niemand rettet und das Heil bei Ihnen selbst liegt ...": Quellen und Beiträge zur historischen Ethnologie von Burjaten und Kalmücken (Wiesbaden: Harrassowitz, 2018), xviii+743 pp.," *Acta Slavica Iaponica* 40, 2020 (in printing). (謝辞無)

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

・ 科学研究費、研究代表者：井上岳彦、若手研究「ロシア帝国における仏教教団と社会事業の相互関係に関する研究」（20K13201、令和 2 年度～令和 4 年度）。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。